



熊澤  
先生

中庸小解

512  
1006  
2



門口 12  
1006  
2



中庸小解下

凡為天下國家有九經曰脩身也尊賢也親親也敬大臣也體羣臣也子庶民也來百工也柔遠人也懷諸侯也

經ハ常也。天下古今易ア。道也。故九經ト云。九經乃本ハ天子諸侯ト云。乃子庶民ト云。故修身ト云。始ト以修身ノ師ハ賢也。昔ノ明君ハ賢者有ル。ハ臣トセテ。一ハ賢者ト云。君真實ト道ヲ思ヒ。修身ト云。天必賢師ヲ有ル。易ハ六畫五ヲ有。信ト云。トシ。上九上六ヲ師ノ位ト云。第乃十三絃二ヲ宮ト云。一ト云。上ト云。置ト云。皆師ノ象也。天經

中庸小解下



乃自然がわ。君乃と上位をきつて師をゆきり  
る。故に長久あるが親くはる  
一親を親しむ也。是本孝のよしなり。親先祖の  
愛する所を愛する也。ある事とて。其人を  
ぬるよ。親類として位禄をあるよしとて。後悔あり  
所と亡ふもたて。人なりぬるよし。金銀衣服等  
何れも。一身の樂をゆきりて可也。敬大臣は統  
重く。諸臣の上よ置いて。礼後らやく。一親之大臣  
を賢人として。臣の礼よりあるよしに教する  
元まよりして敬するは。必ず下しと害あり。後  
大臣と亡ふらる。當り威刑の權を。一親  
ら。元まよりして敬する也。必ず父母を。性命よ

は。つらよあり。五倫も小同し。體羣臣は。諸臣  
を。君のよしは。男子庶民は。農工商の庶  
民の上の恩恵を。もつと。乃て。を。一親  
は。保が。これ。誠あり。は。を。一親  
君子は。民の父母なり。と。之。来百六農具兵具  
と。生民の日用よ。事。き。ざ。り。や。り。は。諸職人  
を。其。所。と。出。來。ら。や。り。は。人。の。名。を。生  
し。國。を。と。費。つ。も。と。乃。は。始。は。吟。味。し。を。職  
を。つ。ら。や。り。よ。も。つ。ら。は。秀。吉。れ。何。れ。を。吉。利。と  
丹。ふ。ら。わ。渡。り。たり。秀。吉。れ。を。知。り。て。又。禁  
し。て。や。り。し。は。一。大。が。り。小。郡。の。費。也。余  
賢。君。出。は。り。て。禁。し。り。と。成。る。き。也。也。



諸侯則天下畏之

道吾身は約するて天下の本を治る人氏乃  
後則とせり也賢を賢くして其教する所は我  
る所ののまゝくす天下の人氏とよら所を治  
らどくす上異端をぬたれは信一のつは  
下の人によらして造化をわやまら老之徳文は  
信天子とつて徳文叔父庶兄とつてをを  
弟の中に揚いとてふとら行つてつわ徳文昆  
弟は下りらよは乃親をを忘れぬはつて  
ぬく思ふのまゝの徳文大夫士庶人まてと  
まは感化して親を親とつてををわら徳文  
下の徳文昆弟とつて天下の大徳は玉象と共は

くつと玉象と共はよこびんくは思ふまゝな  
一町の権勢にわづらひおつてつて徳文乃  
まらつて凍言はぬて任とつてらら之故は  
篤實を重しつて徳文を賢く教するも  
私をくして男を玉象は奉ん故はよ下内外  
よして徳文を徳文を元首のつて思ふ首  
わらつて徳文を徳文を捨つてふ徳文  
よらつて徳文を徳文は乃ゆつてつて徳文  
徳文の徳文重き也庶民は子とつて徳文  
感しよ乃教よらつて徳文はすつて徳文  
樂其樂とつて其中は乃農工商の功を通

中庸下





といふもてはもづる妖也といふ貨は民の  
 乃をくも也民乃のれありて穀也金銀は  
 穀を助ふらざる之穀は民のわらふに金銀を  
 もくして穀をくはるくすのめありては  
 飢饉乃年よ金銀を食とさるべし兵寇も  
 多く用らるれば穀也賤貨してさげらるる  
 よしりよはらるる穀下よらるるて下は用  
 をすふを賤すとも也民の字をばらるる  
 ても民のめくす多きおらるるのありて成  
 もく魚して穀也むくの粟遣ははく粟は穀  
 乃もく金銀をあらるるて下は用をす  
 ぶめは穀は牙よすては成商ありて穀は

民困窮すもはくは是は民の糧商はもはるる  
 ても庶人のいやし知るるもはくは民を  
 君よりありて君は有徳を多くて貨はは  
 ともは民の制する糧はよはるるは民の  
 君れにのたよりなれ也貴徳はは民の  
 也下は民のありては民のありては  
 君は民のありては民のありては  
 〇尊其位は一向れ人よはるるを  
 ともは民のありては民のありては  
 民のありては民のありては  
 武王周の  
 文王





うごころのまをわびて空しく大にわびるは使して  
小臣乃欲を入るる所の大にわびるは進して空  
をうごころのまをわびて空しく大にわびるは使して  
とつて空しく大にわびるは使して空しく大にわびるは使して  
法官を以て使して空しく大にわびるは使して空しく大にわびるは使して  
やわねの功を故にせり也位に賢をそそり  
よそを官擇むし世柄を授る四の黨與多くやわ  
て威福下よ移りて人主孤立して物に○忠信  
重祿は減りて礼法正しく大にわびるは使して空しく大にわびるは使して  
して祿を重く一人の頭をよれば凡俗多く  
成りて物に空しく大にわびるは使して空しく大にわびるは使して  
くも文武乃る為に空しく大にわびるは使して空しく大にわびるは使して

やわねの忠信の人乃下よ付て小事は月  
可也人を司りて空しく大にわびるは使して空しく大にわびるは使して  
いりて○時使薄歛の農乃めをささるるにギヤ  
貢をうりて空しく大にわびるは使して空しく大にわびるは使して  
有老父被苦而耕左右在之老父曰盤于遊暇古人所戒  
今陽和布氣一日不耕民失其時奈何以從禽之樂而馳  
有老農也義季止馬曰賢者也命賜之食辞曰大主不奪農  
時則境内之民皆飽大主之食老夫何敢獨受大主之賜乎  
義季問其名不告而退し農兵を以て武士民同  
巧り田畠を以て空しく大にわびるは使して空しく大にわびるは使して  
つて空しく大にわびるは使して空しく大にわびるは使して  
名一と所のまをわびて空しく大にわびるは使して空しく大にわびるは使して



而乃主もわ族人れまゝのひよおし置して役人を  
 つまらざるまゝくろくしあわむ代よハ礼武あり  
 て人の徳業いそぐしに横ひす  
 不ろなるありしをわじり信乃の徳うそ  
 教すべからし一法をとりて信を修め  
 し一而くし一信をとりて期夕を糧りて過せ  
 し一而くし一近世の世家多し成して化はあく  
 ちるれは信人な教習などよまんと信れ  
 中よ多きを信て真の信よと宿りしを  
 どと宿料とらぐあし今乃凡信しんみまは  
 政の成りしとれし也喜嘉裕不能四方よ  
 くの帝ちんあらしんらりしを賞美し

一より其言を大ししをいへし  
 教つら也文字なるも夷中より書りし  
 ちりくんとて是者ぞらに信とと夷中を  
 一偏ぞら西の帝ちん四方の名人あり  
 よよりて四方の中にも信とと一偏ぞら  
 らる人却乃士は信とと一偏ぞら  
 よ信とと之法氣亦此を文字、教百歳教人  
 のもを信りしを信とと中よ信とと  
 信とと信とと信とと信とと信とと信とと  
 京学の書よは信とと信とと信とと信とと  
 らる西の帝一人よと信とと信とと信とと  
 かとく信とと信とと信とと信とと信とと

志して来り也帝らよと天下に告げし所の先  
 て風俗をふくむ昔日本をわくと中夏をわくと  
 ちて物をおひし也を人をわくとやうく  
 不政のりしれやわの絶世奉廢國の子孫を  
 成て祭をく又けしとむらきして其人と  
 さまの絶世とふ玉部内の子孫をく絶  
 とは月地をふゆけゆりてを求て祭をわ  
 じらるる絶とらふ孫あやまぐ玉部を失ひ流浪  
 一ああんをむむむ一先祖の玉部を  
 あつて代々の家来を扱けし祭をさ  
 ぶと廢玉と祭とを治乱持危の家の中子孫  
 るか来て玉亂せん一子孫不覚悟せん

家を失ひんとすらとて来るとか来ると  
 けり知人をけりけり多りて只流をふけり  
 事よふ一悪人けり其者くらふ刑罰  
 して法をく一子孫不覚あふ教化して  
 信を直さく不改けり流れせ先祖の子孫  
 の中一てよんをえりて祭を立と下共  
 一師とふ知り人をけりて子孫  
 教へ風俗をく一多の朝聘以時朝の法侯帝  
 ち小来て天子よのみゆらな五年よ一度  
 聘八年よ一度大来を使くと一子孫  
 を使くと一天子よ土産をけり也定教の  
 ありは通つて使者をけり来ると一

あつたに徳宗元正治二年一月に畿里と大教定む  
て急くるゆゑに徳宗元正治二年一月に定教ありき  
行経してとくくくく一日と定教ありき  
といふいひも也故に道中いふくくくくく徳宗元  
正治二年三月一日に上洛とすわ小まうてを  
まゐる京に二十日ありき多の居ざりき也む人  
おらぬく徳治の定風也厚徳徳宗元正治二年  
の土産ありきく徳宗元正治二年の土産ありき  
多しと代法大名の土産ありきと徳宗元正治二年  
大樹ありきありき多しと代法大名の土産ありき  
天子畿内之地に帝土の地ありきありきありき

此天下の諸侯より多く治りてありき受ありき  
何を以てくく事とすのくくくくくくくくくく  
徳宗の礼用ありきありきの事ありきありきありき  
と乃重く徳宗の礼用ありきありきありきありき  
ざらぬ小定とすく貢ありきありきありきありき  
くありき貢ありきありきありきありきありきありき  
上よありきありきありきありきありきありきありき  
つら用ありきありきありきありきありきありきありき  
不随ありきありきありきありきありきありきありき  
毎季黄令ありきありきありきありきありきありきありき  
とありきありきありきありきありきありきありき  
乃此也徳宗元正治二年一月に定教ありきありきありき









身は誠あり人の心は偽共より一なる人あり  
生何律儀よりらるる身は誠あり格も然る回をさく  
若しやうらまへるる律儀をくくぬくはあり  
とらぬ乃誠の徳のめり中よりあり

誠者天之道也誠之者人之道也誠者不勉而中  
不思而得從容中道聖人也誠之者擇善而固執  
之者也

天道、至誠也故、自然ありて、無心を欲之人は、  
心も欲也故、自然より、今もんと欲は、  
て、  
ゆらるる聖人也生知安行天と一稱するは、  
害とくして、  
也聖人以下、

丁ら受用は、擇善、日々、  
ハ、  
も、  
物、  
は、  
固執、  
也

博學之審問之慎思之明辨之篤行之

博學、  
審問、  
慎思、  
明辨、  
篤行、

中庸八節  
二十  
昔者古人之于學也六經之書ハ易詩書ハの審同  
行てゆさうし知るユ夫受用して通じさうし  
こよりさうし知るゆをん覺る由行同學子強  
お後悔すらくユ夫受用也して口より書  
面をみく同くどく同くも審同より人の  
心も感でさうし誠の答とみし見さうし  
慎誠を思也道德を海のし經傳を熟讀する  
ハ明辨の要なり古人の朋友と交をみら書  
去まじしと傲のゆより分をさうし己れと  
さうし衆を肩て友なり人と交りし書  
又家よりんは不るこ一人知て人知し  
号の一端を台なれて人よさうしん

欲せし徳をさうしふゆするハ篤行の要なり  
有弗學學之弗能弗措也  
有弗問問之弗知弗措也  
有弗思思之弗得弗措也  
有弗辨辨之弗明弗措也  
有弗行行之弗篤弗措也  
人一能之己百之人  
十能之己千之

けんをわく心ゆきいしさうしん者  
つる子多しんや多るしん孔子のさうし  
君子道より重しん事三つ其他のさうし有司  
すと君子とさうし不孝しめ不許しん  
これさうして用の通するは通し  
あさしんを同し初しユ夫受用也さうし  
ハ思て自れを約しんけ思ハ精微を盡しん









質の偏はれ付て流へ入るて入てはるの  
を欲しし出で留るた欲し二乃内胸中より  
我てやうくは多難ありて又曲の蒙りて蒙  
る昏昧より純一してはるる蒙りて蒙  
る也といふ下乃の蒙り蒙也其本然ありて  
流し水乃源也君子は流るるを果し其  
流を善く水ありてやうく流るる海に達す故に果し  
と云ふ止てよくまをるるは雲はどしどし  
しし澤動を通して流るるくくも物を善く  
あり育りて純一未発の蒙り以養之と云ふは  
しをいふく果行育徳乃功君子は脈也曲を致し  
て滅あり形著明動変化よりる者やわ

至誠之道可以前知國家將興必有禎祥國家將  
亡必有妖孽見乎龜動乎四體禍福將至善必  
先知之不善必先知之故至誠如神

日月星辰の多雲霧を割れ象よの常よりるる  
を示すくく至誠なりなり小若知あり積善  
乃の慶よりりて國家のおくんとくく地を吉  
瑞なり積善の外殃して小象乃亡とくく四の凶  
事ありしるるる至誠の中よりくく者也著  
はれど龜ハト也うめ乃くく今ハ終くわ是非  
善悪人カよ不及しと云ふとめどをとりて天  
よりくく也くく滅りなりなり台山を若く  
くく乃をくくくく動乎四體ハ人乃立





誠者自成也而道自道也誠者物之終始不誠無物是故君子誠之為貴

誠者人物の自然の理なり然して成統するも又自然の道に實りたるが故に自然の道ありて道あり故に誠は人物の始終也といふ誠は万物の一物としてありてありざる實の人のありざるを失つた虚生と云ふ故に君子の貴くあり

誠者非自成己而已也所以成物也成己仁也成物知也性之德也合外內之道也故時措之宜也

誠の心を工夫受用して、仁の徳を成すは、性徳を成すの如く、誠の心を工夫して、知の徳を成すの如く、誠の心を工夫して、宜の時措之宜の時中也

故至誠無息

易曰天の運一晝夜にして周く、日月の代明四時乃錯行、卦の代明、徳の成るるを、孔子の不倦、是の如く、

不息則久、久則徴、徴則悠、遠則博、博則高明





之多及其廣大草木生之禽獸居之寶藏興焉今夫水一勺之多及其不測鼃鼉蛟龍魚鼈生焉貨財殖焉

昭々空明也眼あ乃空明と万里れ空明と同一事也夫をけらる明とくさうらあくくさうらあもれと月新うつらるれをれと一里二里乃る中よち何乃妙もれし天れきつ軍ありとさちよ及て日月うつらくゆふ小星辰流ゆして若友秋多をゆとれ神相乃母らこと地はさうられしうれ妙あがれしむざと一乃相おほひわしうらとさうらとさうらと一聖人の知と常人の知と又あけお告お悪あよ感し不さるまよくむの

良心ありこと一回し仁義礼知ありて思ひ情あらるることおれし聖人の性と平人の性さうらあらるし一回れる中と人のえ中一回新ざらがれしさうらと才知れさるふおあはること各別やわ平人の知ら一回のえ中ねとく聖人の知は人のえ中ねとく故は聖人よち神也も剛乃妙ありさうらとさうらと聖人乃聖人さうら一神の性もあうて不測の妙は心れし故は神ありてあられあはらうてあはるるは伏犧の文字經書教名とるは同よはれおいて始て八卦を畫し一は地方相の理を畫し心は治乃乃測源を開き終て神農は始て醫





さかして人命の深きをうけてけりるまきつしへく  
は不願と亦深きをのちこあつてまきつしへく  
知つてあつてせんやとよりかきつしへくま  
わつてよりせつりちりこつてふまけん也文  
王の徳と声りてよりみく於穆の意より人  
つとまむ徳廣くありて名をへくすす  
純一不貳するの純一なりんは誠なる也  
也故に純もまきつしへくとわたりんは  
文王の文ありてより誠なる也  
**大哉聖人之道洋洋乎發育萬物峻極于天優優**  
**大哉禮儀三百威儀三千**  
けんは聖人天命を知て人乃を盡す

その洋々と流動充滿してあつてより  
乃の他の神乃の別聖人の乃也万物を造化  
發育してより大なりんは誠なる也人  
乃の物けりてより功不成就なるは乃  
之也礼儀の禮なりて礼乃大なりんは誠なる也  
礼なりて礼乃小なりんは式也礼なりて礼乃  
吉也軍實嘉也吉の祭礼也凶の喪礼也軍の軍  
法也賓の客主主人の交接の嘉の冠礼婚礼  
乃の禮儀の礼也三百三千とより多きより  
事なりて必しとせらる也は置法度は多  
也人氏建世してより











して自用法して自守しとすらば古の  
 礼の重きを以て武帝は自ら礼を  
 守りて危くして心は平くは月  
 に入らぬし一に皇統  
 として危くして上らば天子は  
 臣民を相教して  
 人倫を乱さざるを以て子孫を  
 治め法を以て  
 二十條の法を以て子孫を治め  
 一に皇統

非天子不議禮不制度不考文  
 今天下車同軌書同文行同倫

礼は古の軍實嘉の礼法ありし  
 故に損益ありて礼  
 強に損益するに度なきの制  
 万事の法を以て

時を以てして昔の礼を以てして  
 乃玉冠の故也乃人々の礼を以てして  
 二十五経より又十三経よりして  
 礼の損益を以てして改め易かる也  
 文は文法を以てして  
 乃玉冠の故也乃人々の礼を以てして  
 二十五経より又十三経よりして  
 礼の損益を以てして改め易かる也  
 文は文法を以てして  
 乃玉冠の故也乃人々の礼を以てして  
 二十五経より又十三経よりして  
 礼の損益を以てして改め易かる也  
 文は文法を以てして

居て其業を事相八百歳のあよなき所一也也  
 車にてまゝならぬ法乃同く一也一也を以て方其  
 乃制をのりて書つて文法を事相乃其序と同  
 一也也今の人情の變は所ざるもつて  
 又もどくも同ありてあつて成らば事も多  
 るや一も方ハ周の名法也夫は損益あるも  
 亦れどとあるも其の法もくつて

雖有其位苟無其德不敢作禮樂焉雖有其德苟  
 無其位亦不敢作禮樂焉

夫より位よもつて、いふ所は、後乃禮樂を  
 夫より位よもつて、いふ所は、後乃禮樂を  
 夫より位よもつて、いふ所は、後乃禮樂を  
 夫より位よもつて、いふ所は、後乃禮樂を

ことあるに、古樂を、今も、夫より位よもつて、  
 夫より位よもつて、いふ所は、後乃禮樂を  
 夫より位よもつて、いふ所は、後乃禮樂を  
 夫より位よもつて、いふ所は、後乃禮樂を  
 夫より位よもつて、いふ所は、後乃禮樂を  
 夫より位よもつて、いふ所は、後乃禮樂を  
 夫より位よもつて、いふ所は、後乃禮樂を  
 夫より位よもつて、いふ所は、後乃禮樂を



上焉者雖善無徵無信不信民弗從下焉者雖善不尊不尊不信不信民弗從

上、上世也。子思曰、のうりよ也。夏高れ代乃るまは、周とつととと、昔盛乃始、子思、わむ百歲、いれ、初ととと、其代よとる、い、民を、不信故よ善教、い、不從也。下、下位、乃の下に、信を、民を、教よ、後、今、す、及ぶ、民を、信、教よ、後、今、す、

故君子之道本諸身徵諸庶民考諸三王而不謬

建諸天地而不悖質諸鬼神而無疑百世以俟聖人而不惑

是、の、後、天下よ、三王、考、三王、礼、考、て、損、益、至、善、を、期、其、あ、ま、あ、る、人、の、信、從、い、三、王、礼、考、て、損、益、至、善、を、期、其、あ、ま、あ、る、人、の、信、從、い、三、王、礼、考、て、損、益、至、善、を、期、其、あ、ま、あ、る、人、の、信、從、い、三、王、礼、考、

質諸鬼神而無疑知天也百世以俟聖人而不惑知人也

鬼神ハ天地乃出也大地ハ鬼神乃著也鬼神



此節は終るより、一人を以て人の人の徳  
尚也のほかに、一人を以て人の人の徳  
人を修者、人を以て人の人の徳

是故君子動而世為天下道行而世為天下法言  
而世為天下則遠之則有望近之則不厭

動ハカ處進退ハ道也ハ常行ハ天下乃を法言ハ  
可世法ト云フハ言ハ心乃声也自然ト云フハ  
口を以て言ハ仁を以て言ハ心乃声也自然ト云フハ  
也ト云フ其の由ハ仁を以て言ハ心乃声也自然ト云フハ  
よせとて、ハ道ハ人乃以て、ハ地乃思ハ人乃以て

詩曰在彼無惡在此無射庶幾夙夜以永終與君

予未有不如此而蚤有譽於天下者也

在彼ハ人ト云フ也在此ハ心ト云フ也  
予未有不如此ハ予ハ君子也蚤ハ速也譽ハ名也  
自然ト云フハ自然ト云フ也

仲尼祖述堯舜憲章文武上律天時下襲水土

堯舜ト云フハ堯舜ト云フ也  
乃禮業也ハ禮業ト云フ也  
上律天時ト云フハ上律天時ト云フ也  
下襲水土ト云フハ下襲水土ト云フ也  
仲尼祖述堯舜憲章文武上律天時下襲水土  
堯舜ト云フハ堯舜ト云フ也  
乃禮業也ハ禮業ト云フ也  
上律天時ト云フハ上律天時ト云フ也  
下襲水土ト云フハ下襲水土ト云フ也  
仲尼祖述堯舜憲章文武上律天時下襲水土  
堯舜ト云フハ堯舜ト云フ也  
乃禮業也ハ禮業ト云フ也  
上律天時ト云フハ上律天時ト云フ也  
下襲水土ト云フハ下襲水土ト云フ也





しるくいのる仁の考と人れおれいしとて  
可ふあめ地れん載といふのまじり  
祭強剛毅有執の勇也と云の述也  
も二よめくす奇莊中正有敬礼の事と云  
祭祭と別れ知し祭祭の聰明睿知の  
けくのこまけけ四象の述しけくのこまけ  
仁を礼知の性備と云至聖の述し

溥博淵泉而時出之

溥博のあまひろくくろくも也淵泉のあま深き  
徳内に充積してのり也

溥博如天淵泉如淵見而民莫不敬言而民莫不  
信行而民莫不説

溥博のあまひろくくろくも也淵泉のあま深き  
了らりやれ神化のまのり也地の中  
泉の盡るをよめくす奇莊中正有敬礼の事と云  
も二よめくす奇莊中正有敬礼の事と云  
祭祭と別れ知し祭祭の聰明睿知の  
けくのこまけけ四象の述しけくのこまけ  
仁を礼知の性備と云至聖の述し

溥博のあまひろくくろくも也淵泉のあま深き  
了らりやれ神化のまのり也地の中  
泉の盡るをよめくす奇莊中正有敬礼の事と云  
も二よめくす奇莊中正有敬礼の事と云  
祭祭と別れ知し祭祭の聰明睿知の  
けくのこまけけ四象の述しけくのこまけ  
仁を礼知の性備と云至聖の述し













奏ハ進也進テ神を祭リ其牙格を以テ  
鬼神ハ形を以テ見声を以テ知故ハ敬ハ儀  
有り感格以テ言祭ハ用テ鬼神を感テ  
乃儀以テ人化テ人乃下事遂テ事  
如故ハ言を賞セテ人氏トシテ  
若ハ言を賞セテ人氏トシテ  
惡を以テ大將軍ハ鉄鉞を以テ  
威テ神武乃儀也

詩曰不顯惟德百辟其刑之是故君子篤恭而天下平

不顯惟德ハ衣錦尚絀乃象也叶アリ厚き心  
下平

乃儀ハ威テ其乃を以テ  
威德至言ハ言ハ言恭テ  
乃儀ハ言ハ言ハ言恭テ  
裳ハ言ハ言ハ言恭テ

詩云予懷明德不大聲以色予曰聲色之於以化  
民末也詩曰德輔如毛毛猶有倫上天之載無聲  
無臭至矣

声ハ礼式法制ハ孔子此詩を解  
曰政刑法令ハ民人を治メ化マんとテ  
是を才一トイセ凡化ハ本ハ言ハ明儀  
其本ハ言ハ言ハ言恭テ  
に徳乃リ言ハ言ハ言恭テ





